

# 地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会 IMA 小委員会

(第 26 期・第 6 回)

## 議 事 要 旨

1. 日 時：令和 8 年 5 月 13 日（月）18：00～19：00
2. 会 場：オンライン会議（Zoom）
3. 出席者：大谷栄治・土屋旬・西山忠男・阿依アヒマディ・井上徹・入船徹男・越後拓也・大藤弘明・鍵裕之・小西博巳・辻森樹・富岡尚敬・永嶋真理子・坂野靖行・福士圭介・森下知晃・門馬綱一

（名簿順、敬称略）

### 4. 議事概要

#### （1）IMA2026 南京準備状況

2026 年 8 月 20 日から 24 日にかけて南京で開催予定の IMA2026 の準備状況について大谷委員および大藤委員から報告があった。

#### （2）IMA コミッション（CAM・COM）の日本代表委員

Commission of Applied Mineralogy（CAM）の日本代表委員として杉浦悠紀氏および越後拓也委員を、また Commission of Ore Mineralogy（COM）の日本代表委員として越後拓也委員を推薦することについて土屋旬委員長から提案があり、審議の結果、いずれも承認された。今後、土屋委員長から IMA に両氏の推薦を行う予定である。杉浦氏については、27 期より当小委員会に委員として参加いただくことも了承された。

また、Biominerals および Mineral Informatics のワーキンググループについても、今後日本代表委員を選出する方針であることが報告された。

#### （3）地学雑誌特集号企画（IMA 国際連携に関する総説）

昨年 7 月に開催された国際連携分科会主催の学術フォーラムを受けて、地学雑誌特集号「急激に変わりゆく地球環境と国際情勢：地球惑星科学の国際連携・国際協調と日本の役割」において、土屋旬委員長および大谷委員による総説「鉱物が語る—IMA（国際鉱物学連合）の現況と挑戦—（仮題）」を執筆することが報告された。締め切りは 7 月末である。今後、総説原稿の草稿を IMA 小委員会委員に共有し、内容に関する意見やコメントを求める予定

であることが説明された。

#### (4) 次期 IMA 小委員会の体制について

2026 年 10 月から開始される第 27 期加入国際学術団体対応小委員会の円滑な発足に向けて、小委員会の体制を 8 月中に準備しておいてほしい旨の連絡が、国際連携分科会委員長の中村卓司委員長からあったことが報告された。土屋委員長より、現委員には原則として引き続き委員を務めていただきたいとの考えが示されるとともに、退任または委員の交代を希望する場合には申し出てほしい旨の説明があった。

#### (5) 各コミッション・ワーキンググループ報告

##### 鉱物物理委員会 (CPM) 報告：土屋旬委員

2026 年 8 月の IMA 総会のタイミングで、土屋旬氏が委員長、Francesco di Benedetto 氏 (イタリア) が副委員長、Sung Keun Lee 氏 (韓国) がセクレタリーに就任する予定であることが報告された。また、活動の活性化を図るため、この機会に委員構成の見直しを検討していることが説明された。また、大谷委員より、CPM の活動の一環として鉱物物理学に関するレクチャーシリーズを企画し、国際交流や若手研究者の育成等に活用できれば有意義であるとの意見があった。

##### 博物館委員会 (CM) 報告：坂野委員

2026 年 3 月に開催されたウェブ会議において、鉱物・岩石標本を所蔵する博物館を対象とした国際アンケート調査が実施されたことが紹介された。本調査では、ウェブサイトの整備状況、標本コレクションおよびタイプ標本の有無とその規模、過去 10 年間に追加された標本数、カタログのデジタル化状況などについて詳細な情報収集が行われた。日本国内では主要な博物館に対して調査協力を依頼し、8 館から回答が得られた。調査全体では 29 か国 107 館から回答が寄せられた。現在、CM において調査結果の公表方法について検討が進められているとの説明があった。